

真高寺だより

第12号 平成21年8月1日発行
発行所：真高寺（伊澤孝順住職）
住所：市原市飯給1143
電話：0436-96-0058
*発行責任者 根本 貞夫
*編集責任者 木村 孝一



手を合わせれば

総代会長
根本 貞夫

今年も先祖を思い感謝するお盆の季節が巡ってきました。皆様には日頃より真高寺の護持発展のためにご尽力をいただき心より感謝申し上げます。

さて千葉県には曹洞宗の寺が約330箇寺あり、これを地域別に16の教区に分割しています。私たちの住む加茂・南総地域は曹洞宗千葉県宗務所第16教区です。この教区毎に年一回、本山からの布教を担当する老師が派遣され、法話を聞く会が開催されます。今年は6月25日の午後、養老の長泉寺で開催され、教区内から檀家役員など約50人の檀信徒が聴講しました。私にとって話の内容は大変手強いものでしたが、感銘深い言葉が一つだけありました。それは、「体を離れて心はない。手を合わせると『ばか野郎』とは言えず、『ありがとう』しか言えなくなる。挨拶は互いの無事を祈り、絆を強めるもの、この身がみ仏の光に照らされ、ご先祖の温もりに包まれていることを自覚すべきです」との老師のお話でした。他にも沢山良い話をされていたのですが、いつしか馬の耳に変じていたようです。

道元禅師のおことば

「まず履物を揃えることから始めよ」

おことばの意味

道元禅師は、仏道の修業の一つとして「自分の履物を揃えられないようなものに何ができるか。まず、履物を揃えることから始めなさい」と教えられた。長野県円福寺の藤本幸邦老師は、「履物を揃えると家族の心も揃う。それはやがて、世界中の人の心も揃うことにつながる」と強調される。藤本老師の教えは、家族全員が自ら気付いて、自分で履物を揃えられるようになるまで、黙々と揃え続けることと言う。しかし、履物を黙って揃え続けるということは、簡単なようでも意外に難しいものである。半年すぎても全く変化なし。老師曰く「揃える人の心が穏やかでないと、家族は気付かない」そのうち、ようやく家族も揃えるようになる。こうなると不思議なもので、履物を揃えることがとても楽しくなる。



感謝をこめて

住職
伊澤 孝順

謹啓 蒸し暑い日が続く毎日ですが、檀信徒の皆様には、御清祥のことと思ひます。気候の温暖化も加わって、夏の暑さも一段と暑く感じます。ところで、今まで、恒例の施食会を午後の暑い最中に行じてきましたが、今年より、午前中に行事を変更し、少しでも暑さをしのぎたく考えています。

なお、昨年より皆様に調査協力をお願いしました各家の過去帳作りも五冊ほどになり、完成しました。本堂内に過去帳位牌棚も出来、230件の新位牌を安置し、今後も各家の御先祖の供養をしていきます。

これからも檀信徒の皆様が安心出来る寺作りを心がけ、精進して行きたいと思います。

この夏も、皆様には御身御自愛下さいますよう祈念し、挨拶と致します。

合掌





今年の新盆家



(檀家)

(俗名)

(戒名)

金巻家	故・金巻利定様	厚山利徳居士 位
四倉家	故・四倉きよ様	寿貞清修信女 位
金巻家	故・金巻いし様	徳寿温香大姉 位
花澤家	故・花澤なか様	自應院仲厚寿徳大姉 位
門脇家	故・門脇汐里様	汐夢櫻女 位
石渡家	故・石渡喜英様	喜祥自觉信女 位
戸谷家	故・戸谷ふじ様	禪寿藤穏信女 位
桐木家	故・桐木茂様	静実茂道信士 位
渡邊家	故・渡邊清様	明心院寿厚清薰大姉 位
四倉家	故・四倉一郎様	穏精一巧信士 位
田邊家	故・平野のぶ様	円覺院寿福慈恵大姉 位
桐生家	故・桐生てい様	高泉院源室慈性大姉 位
花澤家	故・花澤とし様	崇照院慈圓福寿大姉 位

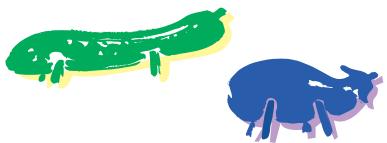
(靈園)

(俗名)

(戒名)

大岩家	故・大岩ナ力様	賢中妙圓信女 位
木村家	故・木村幸子様	修徳明幸信女 位
佐々木家	故・佐々木和夫様	静山和巧信士 位
田中家	故・田中光子様	静穏妙光信女 位
三本木家	故・三本木ツギ子様	集室和厚信女 位
横山家	故・横山喜三郎様	永照院喜翁巧徹信士 位
根本家	故・根本秀子様	真清院秀室静節大姉 位
高塚家	故・高塚義司様	義明高閑居士 位

山内あれこれ



今年から午前に変更です

施食会が今年から午前中に変更となります。15日(土)の午前10時から執り行います。一般檀家13家、靈園関係者8家の21の新盆家が対象となります。

当日は駒澤女子大学の准教授でもある千葉公慈師の法話もあります。

過去帳位牌立派に完成

お陰さまで、皆さんにお手数をかけました各檀家の過去帳位牌が立派に完成し、本堂右側の位牌壇に地区別安置致しました。なお従前の位牌は新しい位牌の後部に収めました。



今年の棚経は14日、大戸・平野です

恒例の檀家棚経は5年に1度づつ該当地区を回ります。今年は大戸と平野地区です。因みに、平成22年養老・高滝地区、23年石塚・万田野地区、24年柿木台地区、25年飯給地区、26年大戸・平野地区です。

ところで、昨年から檀家の棚経は14日となりました。当日は伊澤住職が各家の先祖供養の塔婆を持参して伺います。このため供養料として御布施をご用意しておいて下さい。具体的には塔婆料として3千円です。なお、新盆家の棚経は13日です。



特別救急隊です

今年の1月下旬のこと、前夜来の大雨で参道入口にある六地蔵さんの向い側の土手が崩れて通行不能となってしまいました。この急場を知った、西飯給の松本金蔵さんと木村靖（木村ブロック）さんにより、早速土砂が除去されました。

困った時に迅速に駆けつけて対応する、正に真高寺特別救急隊です。



特派布教行われる

6月25日(木)午後1時より、養老の長泉寺で曹洞宗の布教を目的とした第16教区19力寺合同(南総以南の19力寺で、この内住職在住寺は17力寺)の講演会が開催されました。今年の講演会は、初めに曹洞宗の人権主事をしている鴨川市永明寺(鴨川シーワールド反対側松林の中の寺)の栗原住職から「愛語の再認識」について講話がありました。主な内容は、「門地や障害の有無など、自分の責任の及ばないことを取り上げて責めることを差別という」「生きていることを喜びとすることが仏の願い」「自分の差別意識に気付くことが人権学習」「人権問題はあなたではなく、自分自身が問われている」「差別は差別される側の問題ではなく、差別する側の問題である」など、長野県佐久市の部落問題を扱ったビデオにより、過去の曹洞宗の対応を反省した内容の話でした。

この後、両本山の禅師の名代として、岩手県觀林寺住職の高橋鉄秋老師による、「生かされて生きる」と題した法話がありました。初めに浅く椅子に腰掛けて椅子座禪を体験しました。その後に、福山諦法曹洞宗管長からの『おことば』が代読されました。内容的には、「朝夕の仏前へのお参りは座禅をすることと同じ功徳がある」「挨拶はお互いの無事を祈り、絆をつよく結ぶ愛語です」「道元さまは『ただひとりでも世のために尽くす強い決心をもち行すれば、世の中すべてがそうなる』と励ましておられます。曹洞宗の『人権・平和・環境』はそのための目標なのです」「み仏の言葉としての慈しみの言葉『愛語』を語りかけて欲しい」また、老師からは「朝、顔を洗ったら鏡の前で自分の一番良い顔をする。そして今日一日をこの顔で過ごそうと心に決める。その後で、耳と肩を直角にし鼻と臍が真っ直ぐになるようにして、右手の上に左手を乗せ、臍に近い膝の上に組んで、一寸座禅をする。この顔を3年間やってみなさい」

最後に、300年もの歴史がある相撲甚句のサービスがありました。元幕内三枚目の大至さんが美しい声で、4曲(前うた、江戸の花、七夕様、御法要甚句)披露されました。



見そこなった方に朗報です

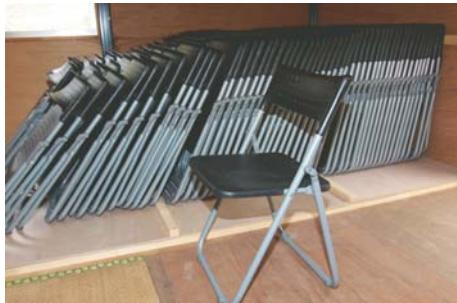
先頃放映されました、角川映画の『道元』をまだ見ることが出来ます。実は既にDVDにされて、家庭のビデオで見られます。レンタル店にはまだ出ていないようですが、何と真高寺にはあります。まだ見ていない方で、ご覧になりたい方は真高寺に申し込んで下さい。無料でレンタルしてください。但し順番です。

ありがとうございます

寄付

大感謝です

西飯給の大沼光志さんより、靈園の道路補修工事に役立て欲しいと200万円のご寄付をいただきました。淨財は靈園中央のアスファルト舗装に充當いたしました。



足が凍れません

養老の丸博光さんより、先祖供養の為10万円のご寄付をいただきました。淨財は折りたたみ椅子150脚の購入代金の一部に充當いたしました。

寄贈

12chでお馴染みです

高滝の根本貞夫総代長より、チェンソー・カービングの立派な作品をいただきました。これは12チャンネルの名物番組でもある「テレビチャンピオン」でお馴染みの栗田宏武氏作の「鷲と熊」の彫物です。同氏は世界的にも著名なチェンソー・カービング作家で市内下矢田在住、根本会長の縁戚であります。



親子そろって

平野の佐久間常壽顧問より、先祖供養の為、本堂正面の丸柱の両山紋入り水引幕1組をいただきました。因みに、今までのものは総代会長であったご尊父佐久間儀平氏が寄贈されたものでした。

来春が待ち遠しいです

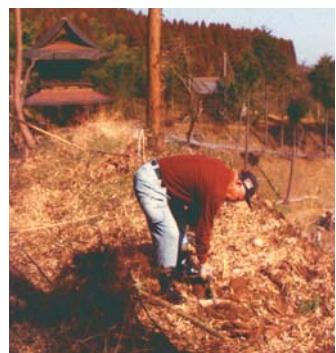
西飯給の松本金蔵総代より、先祖供養の為、花祭り用の花御堂1組が寄贈されました。来春より4月8日のお釈迦様の誕生日に近い日曜日に、甘茶をかける仏生会を行うことといたします。そこでお願いですが、境内に甘茶の木を植えたいと思っております。どなたかお心当たりの方はご心配ください。



(植木・花の寄贈)

ナイスガイ三人衆

西飯給の松本金蔵総代より、紅葉30本とつづじ20本をいただきました。大戸の田辺宏一さんと水村石材さんと共に、紅葉は昨年竹を伐採した土手に、またつづじは参道に三人で植樹しました。



かわいいプレゼント

里見小学校より、サクラソウの苗を植えたプランター2個をいただきました。子供たちの真心そのものが花開きました。このプランターにはまた新しい花苗を植えます。



二人して

柿木台の小澤平治総代より、紫陽花30本をいただきました。ご子息の小澤恒二さんと共に第一駐車場の周囲に植樹してくれました。菩提寺と思う親子での奉仕に感謝です。

花の寺も間近です

五井の星野幸太郎さんより、沢山の水仙をいただきました。美しい所には人は集まります。四季を通じた花の寺も間近です。

彩りをありがとうございます

西飯給の加藤美枝さんより、紫のあやめをいただきました。第一駐車場の周囲に移植しました。

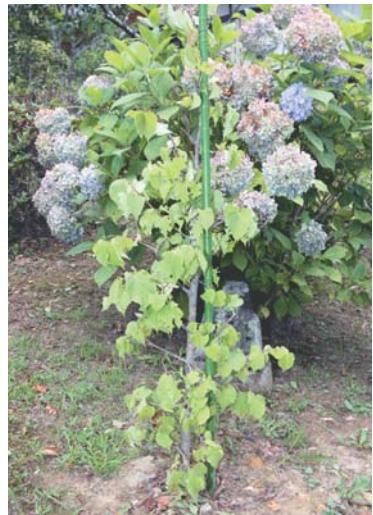
秋が楽しみです

西飯給の金巻いちさんより、紅葉の苗50本をいただきました。紅葉の名所にしたいものです。



30メートルにもなります

平野の渡邊康さんより菩提樹の苗木をいただきました。本堂入口の左側の庭にシンボルツリーとして植樹しました。お釈迦様がこの樹下で悟りを開いたと伝えられ、樹高は30メートルにもなるそうです。付近では笠森寺にもあります。



作業奉仕

枝垂桜が元気に

柿木台の花澤基さんと大沼康衛さんの両総代により、本堂前にある老木の枝垂桜の苔が洗い流され、消毒も行われました。また、風で根が動くことのないように添え木で支えてくれました。お陰で葉も緑濃く沢山繁って大変元気になりました。



いつもありがとうございます

西飯給の金巻いちさんと加藤美枝さん、そして木村久子さんにより、参道入口に沢山の草花が植えられました。変わらないご尽力に感謝です。



お寺もスッキリ

お盆を間近にした8月8日の土曜日、早朝から多くの総代役員により境内全域の草刈が行われます。この作業は毎年の恒例行事となっていますが、昨年は蜂に刺されたりして大騒ぎでした。皆の力で境内もスッキリです。



編集人の独り言

信仰と言うよりは、多分に観光ですけれど

先頃、映画『道元』を見ました。道元禅師は今から凡そ800年前の鎌倉時代、24歳で中国に出て4年間も異郷で修業を積まれ、「只管打坐」の禅宗・曹洞宗を開かれました。映画を見終わって、道元禅師が学んだ「寧波（ニンポー）」の「天童寺」へ実際にやってみたいものだと思いました。そこで早速インターネットで検索すると、1件だけ「クラブ・ツーリズム」が主催するツアーが見つかりました。「普陀山・天台山・杭州・紹興・寧波6日間」と言うもので、費用は5泊6日の旅で約10万円です。天台宗の聖地や諸葛孔明の多くの子孫が今も住む村なども訪ねるそうです。

真高寺は大黒様がお似合いかなー

お正月になると、「七福神詣」という言葉をよく耳にします。そんな折り、ある人から「市原市には七福神詣ができるところはありますか」と聞かれ、即答できませんでした。調べてみると、どうもなさそうです。それならば、新たに創ればよいのではないかと思いました。例えば「南市原七福神詣」として。幸い、真高寺の他に、朝生原の宝林寺、月崎の永昌寺、田淵の耕昌寺、本郷の西光寺、養老の長泉寺、そして古敷谷の長楽寺と丁度7箇寺あります。七福神詣が出来るようになれば、檀家以外の人達も沢山参詣に来るようになることでしょう。何しろ市原市では初めてのことですから。真高寺は仁王様も総持寺で原形は一緒、ならば総持寺で有名な大黒様が真高寺に居られてもよいのでは？ 孝子大黒とは違いますよ。